

## 第1回 総社市吉備線整備方針等検討委員会

- 1 日時 平成27年 3月26日(木) 15:30~17:30
- 2 会場 総社市総合福祉センター 2階 保健指導室
- 3 出席者 委員：浅沼 唯明，森下 眞行，佐藤 ゆかり，河田 雅史，清水 男，坪井 祥隆，  
平松 秀昭，中島 謹四郎，上野 栄甫，白神 増己，福島 登，吉富 昭夫，  
陶山 正志，三上 正資

以上14人

欠席委員：豆原 祐史

以上1人

当局：総社市長：片岡聡一，政策監：風早俊昭，産業部長：中島邦夫，市民環境部長：  
長江章行，人権・まちづくり課次長：林圭一，同安全安心係長：別府直樹，同安  
全安心係主任：仁科茂樹，同安全安心係主事：福島由佳，介護保険課主幹：小原  
純

以上9人

### 【総社市吉備線整備方針等検討委員会】

(司会)

本日はご多忙のところ，第1回総社市吉備線整備方針等検討委員会にご出席くださりましてありがとうございます。

ただいまから，検討委員会を開催いたします。

はじめに，委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきます。

**市長が個々に交付**

(司会)

続きまして，片岡総社市長がごあいさつ申し上げます。

(市長)

みなさん今日はどうもありがとうございます。吉備線をLRT化するかしらないかの決断をしたいと思えますので，この検討委員会で議論していただきまして，した方がよいのか，やめた方がよいのか決めて，私に答申していただきたい。決断するのは遠い将来ではないと思えます。やるならやる，やめるならやめるで，そんなに長い時間をかけないかもしれませんが，その時間の幅についても議論していただき，決断していただきたい。ただ相手がありますので，岡山市やJRの話もありますが，それはさておいても，我が総社市としてやるのかやらないのかまず決めておかないとテーブルにもつきませんので，重々ご議論いただきたい。

ちょっとお話をさせていただきたいのですが，総社市の形が変わろうとしています。例えば，昭和の英語特区とか全市的に川西地区の農地転用，企業誘致，新しい政策であるとか，山手の人口が増えているであるとか，清音もそうですけど，中心地は人が多すぎるであるとか，いろんな問題はあるのですが，今我々が迎えている状況をお話しますと，3年以内に雇用が3千人増えてまいります。今ユニチカのゾーンにシノブフーズとモンテールが先行して操業しておりますが，大黒天物産が4月の30日に操業開始，そして第2棟が10月には完成してまいりまして，大黒天だけでも雇用が600人と，募集がかか

っております。そして今、総社 IC の西側の GL プロパティーズ、第 2 棟目が建設中でございますが、これが 10 月の半ばには完成竣工いたします。1 棟につき雇用 500 人ということで、2 棟目ができれば雇用千人、そして一昨日解禁になりましたが、その北に日本郵政集積・集配拠点センターが、進出が決定し、造成が始まりました。これは日本郵政の郵便物を、中国 5 県のうち、西のエリアを山口市が取りました。東エリアは総社市が取った。これがどうなるかという、今まで倉敷中央郵便局、福山郵便局、岡山中央郵便局、これに行っていた郵便物、宅配物すべてが総社に集積され、そこから全国発送されるという拠点、集配センターになります。日本郵政の職員が 800 人、日本郵政配送センターの職員が 200 人、合計千人の雇用が日本郵政だけでもうまれてきて、2 年後には、それが稼動し始めます。保有車両数が 700 台と聞いております。ですから、ユニチカのゾーンだけでも 2 千人の雇用ということに様変わりしてまいります。3 年以内に 3 千人を超える雇用が総社市の中で増えてくるということです。一方で私が国に対して農地転用の許可権限を地方の首長に譲渡するべきということが今国会に昇っております。これが国会で可決成立すれば、総社市の地面を農地転用する権限を市長が担うということになります。そうした場合、もっとも分かりやすいのが、岡山県立大学の農地を農地転用し、市街化区域に編入すれば、あっという間に学園都市が出来上がるでしょう。今は田んぼの中に JA が 1 つ建っているだけです。そうして沿線の色塗りのあり方をまず先行的に考えながらでないと、この吉備線の LRT 化の議論も意味合いもまったく違ってこようかと思えます。そういう意味においては、LRT の是非はともかくとして、これからの岡山駅発総社行き、そしてさらにこの延長 20 キロのうち 6 キロが総社市分でそのうち 4 キロは農地です。この土地活用のあり方の変更をわれわれはこの総合計画の中で加え、これを解除して、市街化に編入しようとする努力を一方ですということはお約束をしたいと思います。

そういうことを含みおきながら、これはお金もかかることでございますし、コンパクトシティの是非ということもございまして、さまざまな議論をもって、ぜひ、明確な結論をお導きいただければと思います。いただいた答申を基に、市議会や多くの市民と議論をしながら進めていくという運びになろうかと思えますので、ぜひ明確な結論を導き出していただくように、よろしく願いをいたします。これは本当に総社市の未来がかかった、総社市の 50 年後、100 年後を大きく変える話になろうかと思えます。という事で、ぜひよろしく願い申し上げまして、ご挨拶といたします。今日は本当にありがとうございます。

(司会)

本日は 第 1 回の委員会でございますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。お配りしております名簿の順番に、浅沼様からよろしく願いいたします。

**各委員自己紹介・委員会名簿参照**

(司会)

ありがとうございました。

最後に事務局を紹介させていただきます。

**事務局自己紹介**

(司会)

それでは、議題にすすめさせていただきます。

「委員長の選任」でございますが、総社市吉備線整備方針等検討委員会設置条例第 4 条の規定により、委員長は委員の互選により定めることとなりますがいかがいたしましょうか。

(委員)

事務局に発案があれば発表していただきたい。

(事務局)

事務局案として、総社商工会議所会頭の清水 男さまにお願いしたいと考えています。

(司会)

それでは、皆様にお諮りしたいと思いますが、事務局案にありました、総社商工会議所の清水様にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

異議なし

(司会)

それでは清水様を委員長に決定したいと思います。委員長の席を用意いたしますのでご移動お願いいたします。

委員長を席に案内

(司会)

それでは、委員長が選任されましたので、就任のごあいさつをお願いいたします。

清水委員長あいさつ

(司会)

委員長が選任されましたので、ここからの議事進行を清水委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(委員長)

ただ今、司会から紹介がありましたとおりでございますので、議長を努めさせていただきます。議事進行がスムーズに進みますよう皆様方のご協力よろしくをお願いいたします。

それでは、議題(2)「吉備線のLRT化の検討経過について」事務局から説明をお願いします。

事務局説明

(委員長)

ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見・ご質問はありませんか。

(委員)

岡山市、JRとの三者会談でどのような意見があったのか知りたい。

(事務局)

三者会談で出た意見として、岡山市長は、今日説明するたたき台を12月末までに作成して、これを基に将来検討していこうという発言であった。その結論を出すのは今明確にしないほうがよい、という考え方であった。そして真鍋社長のほうは、JR西日本として積み残してきた課題であるので、これをやるかやらないかの決断は必要になってくる。ただ懸念されることとして、岡山駅から総社駅に行くまでの総社市分に、何か魅力的なゾーンがあるということが、このLRT化の決め手になりはしないか、ということ。それから、富山港線と性格は違うものになりはしないかというような。私のほうからは、いずれかにおいて結論を出さなければならないでしょうと。ただ、駅をどこにするかとか、利害関係が絡むようなことを前振りして、それで停滞するような議論にはならないので、駅の名前とか場所とか路線についてはフリーにしておいて、イエス・ノーの議論を先行させたほうがいいのではなかろうかと。同時に総社市として、沿線6キロの農地の転用については、私が責任をもって国に働きかけていくと。ただ国の、農地法の牙城はきついで、どこまで打ち崩せるかは分かりませんが、全国市長会の代表選手になっているので、これから国会活動に向けて頑張っていきたいと。そのようなことが三者会談であった。そのときにイエス・ノーをいつまでにというのは定かではないことにしておきましょうと。それから駅の実名というのは定かではないようにしておきましょうと。で、12月末までにさまざまなパタ

ーンの素案を作りましょうと。で、お互いがそれを持ち帰り、イエス・ノーの議論を深めてまいりましょうと。そのような議論であった。

(委員長)

他に意見はないか。

(委員)

私の知識がみなさんに追いついてないための質問になるかもしれない。私はLRT そのものを詳しく知らないが、写真で見るとイメージとしては電車「MOMO」に似ている。騒音も低く見栄えもよく乗り心地もよさそうである、という外観的なことしか分からない。これは市内を回遊する機関であるという印象しかない。私の観念からいうと、20キロ離れた都市間を結ぶ交通機関であるのか、という1つの疑念がある。もう1つは、総社市の観光の目玉は吉備路である。

五重塔や鬼ノ城、春の菜の花畑やれんげ祭り、観光に力を入れてきた山手の人たち。これらが総社市の一番売りたい財産であろう、売れる財産であると思う。国内外に対してもっとPRすべきだと思う。インターネットの普及で、総社に来る予定のなかった人たちも足を伸ばしてみよう、ということも将来起きるのではないか。今の吉備線のルートを変えずにかっこいい電車を今のまま走らせるのは非常にもったいない。もっと売れる観光があるのではないかと思うし、むしろそっちのほうへ方法を変えて、LRTだけでなく、もう少し違った交通機関、吉備路を通るルート、方法、事業を考えるべきではないか。そうでないと後悔するのではないかという気がしている。無知ゆえの発言かもしれないが、正直な気持ちがそういう感想を持っている。

(事務局)

忌憚のない意見ありがとうございます。総社市の観光の目玉、吉備路ということであるが、LRTが総社市にマッチするかというのはデザインで解決する、と。そして機能をどういう風にする、その辺までこれから深めていって考えていきたいと思っている。路線の経路のことについては、多額の経費がかかるということがあるので、その辺については今現在、新規路線にするかどうかの程度かかるとか、明確ではないので、その辺も合わせて明確にしていくとともに、できるだけ効果が上がるような形で示させていただきたい。

(委員長)

5・6年まえ会議所でも委員会を作ったのだが、検討をする前に、LRTとは何か、どういうものかなど研究をした。私の感想では、今後はLRTのような電車をJRも部分的には使っていきたいと、電気自動車でも早く走るしというような。それを最初に取り入れたのが富山と岡山。LRTに関して従来街中をぐるっと回る環状のような形ではなく、JRの正式な軌道を走るそういうものを目指したいと聞いたのだが。

(委員)

吉備線LRT化を考えたときに、今の吉備線ではない吉備線も考えていいわけであるが、そこはまったく話として変わってくる。観光地がたくさんあっても、観光地から離れたところを走っていると、そこまでどうやって行ったらいいのか。観光地に近いところまで線路を持って行って、変えてくるのだと、そういうことまで含めて議論をしていくのか、それとも線路としては今の固定した線路を使ってそれをLRT化するのかと、それはどちらなのか。

(事務局)

基本的には、新たな路線ではなく既成路線で行っていききたいと思う。億単位のお金がかかるので、できれば既成路線、観光地へは二次交通という部分で考えたいと思っている。

(委員長)

KCTと一緒に富山に行っていて、LRTは何かというのを作ったように記憶しているのだが、そういうのがまだあればみなさんに渡して見て頂くとか、何か全体的にLRTの感覚が分かるようにできれば。聞いたところによると、列車だと維持費が大変かかる。また吉備線が非常に古い路線なので、将来的には使えなくなるのではないかと。そういう話も以前聞きました。そういうのも合わせて、どうしていくのかという議論になろうかと思う。今の事務局のほうでは、そうしているとなかなか前に進まないで、今の路線で考えて欲しい、ということによろしいか。

(委員)

今の路線で決めてしまうという進み方そのものは、あまり賛成できない。というのも、今の路線でそのまま進むのであれば、LRTに持ってこなくても、JRが持っている、電気で動く比較的新型の電車を持ってきて、それでよいのではないか。次の世代に夢のある都市づくりにしようと、何十年に1回かの路線の見直しである。吉備線が非常に古いというのは事実であるが、古いから少し新しいものを入れようというのは当然のことなので、これが1つのチャンスである。

(委員)

委員長、今日の議題があるので、その議題を進めて、もう少し順番的なことをみんなが知識を得て、それから具体的な話に入らないと、先に進まないと思う。

(委員長)

岡山がLRT化するとすると、廃線になって総社には何もなくなるという、そうならないために、同じ電車を入れてくれるかとなるとそれもなかなか難しいと思う。相手があつてのことで、岡山がやる気であれば、総社が検討しないのであればじゃあ高松や足守で止めようかという話を出されるわけです。総社は話に乗らなくても乗ってもいいという部分もあるので、総社ではなくて単独ですべての吉備線を新しい車両を入れて未来のあるものにしようかという発言はちょっと、どうしても予算があるので、総社が全部やらないといけないということになるので、それはちょっと置いておいて、次の議題に進めたいと思います。

それでは続きまして議題(3)「吉備線の検討体制について」事務局から説明をお願いします。

**事務局説明**

(委員長)

何か質問はないか。

**質問等なし**

それでは続きまして議題(4)「吉備線LRT化基本計画素案について」及び議題(5)「今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

**事務局説明。((4)・(5)まとめて説明)**

(委員長)

みなさまに1分ずつくらいご発言いただいて、今の時点での、こういうことがもう少し知りたいとか、次までにこういう資料を揃えて欲しいとかいうことを中心にさせていただいて、まず学ぶところから始めたらいいのではないかと。

(委員)

スケジュールについては、岡山市なりとスケジュールを合わせる必要があるのかないのか、ということがまず1つ。第2回、第3回とあるが、もう少し、第2回の委員会ではこういうことを議論していくのだということ具体的に前もって打ち合わせしておかないと、長年かかってきて、うまくまとめてい

るが、さらにポイントを絞って議論していく決め手は何なのかということが必要であると思う。そして事務局にお願いであるが、決定の要素、何をもって良しとするのか、基準がみんなバラバラだと思う。議論していても、何と何を議論して、そこがこうであったら全体として青信号にするのかというある程度目安という基準的なものがなければいけないのではないか。例えば、総社市民にメリットがあるかないか、そこが一番重要だと思うが、そのメリットという概念など、おおざっぱなものではなくて、もっと細かく、市民にとってのメリットは何かと。事業者や駅周辺の住民、離れた人や通勤客など、かなり細かく分けてメリットを、こういう場合もあるよねという議論の前提条件をはっきりしておかないといけない。今後のいろんなパターンがあるが、コストあるいは環境の負荷を考えるにしても、電化する必要があるのか。

(委員)

今後どこを一番審議して欲しいか、そのあたりがまだすり合わせができていないと思うのでもう少しやりくりした方がいいと思う。例えば財務的なこととか投資の部分というのは専門家が見たほうが確実に早いわけで、利益が出なければやる意味はないと思う。ただ、将来的に10年20年総社市を先に見てこれはやっておかなければと思ったら、また違った視点でこれは進めないといけないと思うし、そのとき住民がどういう姿になっているか、先のイメージをもっていかなければならない。そのイメージがまだ協議できていない。なので、みんなが共有できるイメージを重ねていかないと、必然的に審議することが決まってくると思う。

(委員)

今日全体像の説明を聞いて、全体像が分かったような気がする。ハード面とソフト面の両方を合わせて考えていかないといけないと思う。高齢者や身体的に障害を持った方など、社会的弱者といった方々にどういった影響があるのかなど、データ等あれば提示していただきたいと思う。

(委員)

私は利用者的な立場から今後意見を言っていきたいと思う。例えば運賃が値上がるのではないかとという心配や、定期券で通勤・通学している人などもある。今後のスケジュールであるが、何月頃に会議を計画しているのかということが分かれば早めに教えていただきたい。

(委員)

富山のライトレールは廃線からスタートしている。吉備線は、まだいけるぞというところからスタートしている。ただし、未来に向けて、吉備線がどうかということが議論になると思う。それに伴って、地域の開発を一緒にするのかどうかということだと思う。市民の考えと、行政の考えは少し乖離があると思うので、その辺を分かりやすく説明されたほうがいい。あと、富山ライトレールのビデオを一度見たほうがいい。

(委員)

LRTに係る具体的な金額、岡山市と総社市の割合がどのようになるのか、それから、農地転用、農振解除、県立大学や東総社あたり、あの周辺のまちづくりをしないと、何もなくて今までの吉備線と同じように走っていたのではだめだと、そう思います。なので、まず先に決めるべきはあの周辺を全部農振解除、ということがまず一番ではないかと。それからどうなるかと。やってみて、あれが解除されなければだめだと思う。服部駅周辺はなにもない。お店でもなんでもできるように思っています。

(委員)

今回の一番大きなポイントは、5ページ目の、吉備線沿線の現状と課題、土地利用、これが一番大きなウェイトを占めていると。岡山市にやる気がないのを感じる。吉備線沿線上に人口が集約するところ

がない。ここを岡山市がどれだけ思っているか。観光より先に学校の周りを都市化することが重要。人が乗らないと成り立たない。岡山市は市街化調整区域を都市化しないように規制していて、やる気がない。そのことと今回の計画のギャップが心配。総社市の方はやる気がいっぱい。次に、観光はさておき、北陸3県がなぜいいのか。一番住みやすくて、住んで良い地域である。みんなが誇っている。学力でもトップ。いかに住みやすい市にするか。総社市が住みやすいところになるように努力すればスムーズに行くと思う。乗ってもらわないと話にならない。

(委員)

簡単にいえば、私のところの地域は、やってもらえればありがたい。ただ、大きなお金がかかったり、いろいろな問題が出てくると思うが、これから人口が本当に増えて、あの沿線で人が増えてくるのかという気持ちはある。将来的に、これだけ大きなお金をかけて採算が取れるのかという気もするが、私の気持ちとしてはやってもらえればありがたいという気持ちです。

(委員)

今までの説明を聞いて、大体の概要もよく調べられて数値化もされて、こっちの方向へいこうというのが感じられる。もういいのではないかと思うが、本当にいいのかとも思う。一番心配しているのは、総社市民が税金で負担をしないといけないような、井原線の轍を踏まないように、悪い例があるので、それを避けたい。これから2回目、3回目の検討会をするようになっていくが、9章までであるので、小分けにして中身を意見交換していかなければならないのではないかと思う。単純にLRTにすれば自動的に乗車率が増えるようになっていくが、通勤やお年寄りなどに乗りやすくなるので増えるということであるが、果たして本当にそうか。自家用車の利便性に比べて本当に便利だと思うのだろうか。LRTが勝てるのか。そういう疑問がある。総社の市街地の人口は増えるであろうが、田舎の人口は減っていくと思う。その辺も考えると、吉備線に乗る人が本当に増えるのか疑っている。経営収支を心配している。

(委員)

良いか悪いか、わたしは良いと思う。いろいろなご意見があると思うが、住民として、吉備線がLRT化することによって使いやすくなるということは事実でしょう。いいことは、少しお金を出してもやらないと、進歩がないと思う。採算性は一番重視するが、良いか悪いかといたら良いので、良いことはやりたいというのが基本である。これをもう少し具体的に、予算や後の負債などももう少し検討委員会で出していただいて、学識経験者のみなさんもいるので、そこらあたりは具体的に。私たちは良いか悪いかです。私たちは素人なので、検討委員会で私たちにも分かりやすいものを提供していただいて検討していかないと判断していくことができません。ただ良いか悪いかと言ったら便利になることはやっていただきたいと、それが私の考えです。

(委員)

吉備線の利用者が増えるか増えないかという問題ですが、本数を増やしていくと利用者が増えるのではないかと思う。利用者を増やすことによって運営が変わってくると思うので、この辺を検討していけばいいと思います。

(委員)

基本的には前向きに検討していきたいと思う。沿線のまちづくり、特に服部のまちづくり、市街化区域にしていただいて服部駅を中心に1つの大きなまちづくりができればいいなと思っています。

(委員)

私はやるべきと直感した。本当のLRTの意味を考えたときに、聞いている範囲では成功している。想像図を作ってみたらどうかと。本数が増えるとなると、当然客数も増えると思う。検討してずっときて

いるので、しないといけないというのが私の意見です。

(委員長)

まとめて事務局で答えられる範囲で答えていただきたい。答え切れなかった部分については、岡山、JRとの検討委員会を持ち寄ってということになると思う。

(事務局)

岡山、JRとのスケジュールの調整であるが、基本これは三者で行うべきものだと思っている。総社市だけが先行して何かをするということではない。基本的な計画については、事務局のほうでこういうメリットがあるデメリットがあるということで資料作りをさせていただきたい。それに基づいているらご意見をいただきたいというのがねらいである。その点でご協力いただきたい。最終的な決定の基準であるが、三者で協議していく中で、メリット、デメリット、問題点が出てくると思うので、その辺をこの会議で示させていただきたい。まちづくりについてであるが、現在は農地法と都市計画法、非常にハードルが高い。この点がどうなるかということもこの事業を見極めるための大きな要因であると思っている。今後ですが、第3回目までの検討会議はまだはっきりとした日時が決まっていない。事務方としては、岡山市、JR西日本と協議して、資料作りを行っていき、それを審議していただき、それが総社市にとってどうかということをもたまたまここへ持ってまいりたいと思っている。そういう観点でこれからもいろいろ御意見いただきたいと思う。今日いただいたことについてはこれから整理して、またお答えできるときに答えさせていただきたい。

(委員長)

スケジュール、次回はいつごろにするとか、3回でいいのか、もう少し増やすのか、そこらへんを決めないみなさんの都合もあるので、みなさんが参加できるように、総社市の体制もここで変わるので、次回が決められるのかどうか。

(事務局)

まだ決められない。今回はたたき台を示させていただいた。これから事務方でそこを掘り下げていく、例えば運営スキームでも6つ示させていただいたが、これは論外だというものもある。そういうものを整理してからということになるので、もう少し時間をいただいて、次回がいつというのは未定である。来年度2回だけですむかということだが、2回ではすまないのでは、という感想を持っている。できるだけ早めに連絡させていただきたい。

(委員長)

私の要望としては、みなさんで知識を共有して、同じようなレベルで議論を出す中で最終的な結論を出したいと思う。ケーブルテレビのDVDがあれば、みなさんに。もしそれがあればみなさんにお渡しして、富山に行って実態というのがどういうものかとか、富山がどういうようにやったのかとか、メリット・デメリット両方あったように思う。今日全部答えていないので、そういう部分を合わせて何か、答えられるものは答えればいいが、もう少しまとめたものを渡してもらえればそれまでの間に。次回については、早めに資料を送って、要点等を、ここを読んでくださいというようなメッセージという形にさせていただきたい。私からは以上です。他に要望があるか。

(委員)

次回の案内を少なくとも10日くらい前には。

(事務局)

早めに連絡させていただく。

(委員長)



時間的にももう少し、1時半くらいから始めていただきたい。

(事務局)

できるだけ早くさせていただく。

(委員長)

みなさんが参加できるようなスケジュール設定をお願いします。これで本日の委員会は全て終了いたしました。皆様には長時間にわたりご協力ありがとうございました。

(司会)

清水委員長大変ありがとうございました。皆様方におかれましては、大変お疲れ様でございました。

以上をもちまして第1回総社市吉備線整備方針等検討委員会を閉会といたします。お忘れ物をなさらないように、お気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。

